

自己点検・評価表

基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校長名	所 在 地			
中部ファッション 専門学校	昭和55年3月31日	片嶋 文子	〒472-0025 愛知県知立市池端1丁目13番地 (電話) 0566-82-8010			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所 在 地			
学校法人山本学園	昭和40年1月7日	山本 直明	〒472-0025 愛知県知立市池端1丁目13番地 (電話) 0566-81-2151			
目的	ファッション業界に貢献できる技術と人柄を兼ね備えた人材の育成を目的とする。職種としては、デザイナー・パタンナー・マーチャンダイザー・アドバイザー・スタイリストなど専門職として将来の活躍を目指す。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
服飾・家 政	専 門	ファッション産業 学科	3年	3150時間	有	無
		ファッション学科	2年	2100時間	有	無
		ファッション流通 学科	2年	2100時間	有	無
		スペシャリスト 学科	1年	1050時間	無	無
教育課程 (年間)	講義	演習	実験	実習	実技	
	420時間	0時間	0時間	420時間	210時間	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
290人	194人	15人	15人	30人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表（有） ■成績評価の基準・方法 学則の評価方法に基づき100点満点で評価	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：7月21日～8月31日 ■冬 季：12月25日～1月7日 ■学 年 末：3月21日～3月31日			卒業・進級条件	在籍学科の全ての単位を取得し、かつ所定の出席日数を確保	

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ■クラス担任制（有） ■長期欠席者への指導等の対応 家庭と連携をとる。必要により家庭訪問を実施 	課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ■サークル活動（有） デザインサークル
就職等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ■主な就職先 ファッション業界 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 97% 	主な資格・検定	<ul style="list-style-type: none"> パターンメイキング技術検定 ファッションビジネス能力検定 文部科学省後援色彩検定 ファッション販売能力検定
ホームページ	URL: http://www.chubu.cfc.ac.jp		

1. 学校の教育目標

1993年4月、知立文化服装専門学校はその名を中部ファッション専門学校と改め、新たなスタートを切りました。

「ものづくりのプロを育てること。」これこそが、教育の原点であり、目標でもある。「ものづくり」とは、単純作業による製造ではなく、作り手の高度な技術、感性や精神性の体現による製造と考えている。本校は、単なる「服のつくり方」ではなく、デザインを考える力とそれを構築し表現する技術、そして商品としてのコーディネートする力を教育している。

デザイン力については、デザイン教育、とりわけあらゆる文化を比較、融合し、独自の視点を持つよう教育している。構築し表現する技術については、最も本校が力を入れている教育であるが、パターンメイキングを中心とした高度な技術の習得である。ものを構築する力があってこそ、デザインの組み立てとその表現・体現を行うことができるため、やはり、技術力は重要な教育のひとつである。

私たちが目指すのは、60年余りにわたる伝統と実績をベースに、一流の教授陣と最新の設備を駆使して、専門知識と確かな技術、センス、ビジネス力をトータルに身に付け、頑固なまでにワザにこだわり、ファッション業界で全国あるいは国際レベルで、幅広く実力を発揮できるようなプロフェッショナルな人材を育成することです。

また、「ファッションは生き方の表現である」という観点に立ち、技術の習得だけでなく豊かな人間性も育てていきたいと考えます。ファッションを「作る」のではなく「創る」人、全国や世界を目指す人、豊かさに満ちた生き方を実践できる人…、そんな若い未知の才能を見い出し開花させ、素晴らしい人材を育てることこそが、私たちの教育テーマなのです。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・考（プラン）→創（クリエート）→売（コーディネート）の各ゾーンで求める人材育成
- ・学生のプレゼンテーション能力のアップ

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1).教育理念・目標

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・学校理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

①課題

ファッション流通学科の充実

②今後の改善方策

流通業界の職種の広がりに対応するカリキュラムの充実

③特記事項

校内ショップでのロールプレイング実践、カメラワークスを通しての色々な環境でのスタイリング提案等を学びコーディネート力を高めていく。

(2).学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	4 ③ 2 1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4 ③ 2 1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 ③ 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

①課題

業務の効率化

②今後の改善方策

各部署での情報の共有化に努める

③特記事項

忙しい業務の中で、いかにゆとりの時間をつくるか。

(3).教育活動

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修行年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 ③ 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
・関連分野の企業・開発施設や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1

①課題

教員の質向上

ファッション流通学科の教員の獲保

②今後の改善方策

新技術の研修会実施

学年・学科のさらなるカリキュラムの編成

③特記事項

教員の質向上のための時間確保の調整

(4).学修成果

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④ 3 2 1

①課題

経済的理由による退学者の対策
入学目的の違い、習熟度の違いからくる退学者対策

②今後の改善方策

奨学金の活用や保護者との連携体制の充実
補習・クラス編成の検討

③特記事項

資格取得状況は「[こちら](#)」をクリックしてください。
就職状況は「[こちら](#)」をクリックしてください。

(5).学生支援

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

①課題

学園グループでの奨学金体制
社会人対応クラスの設立

②今後の改善方策

社会人教育に対する教員確保・カリキュラム検討
学生支援対策部の設立

③特記事項

国の支援制度を望む

(6).教育環境

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

①課題

大規模災害への対策

②今後の改善方策

学園グループでの避難訓練実施

③特記事項

避難に対して学生の臨機応変な力を身につけさせる

(7).学生の受け入れ募集

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

①課題

今後の少子化への対応
男子学生の確保

②今後の改善方策

ファッション業界内容の周知及びこの分野の魅力を伝える
学校の特徴を伝える

③特記事項

特色ある教育の実施

(8).財務

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ③ 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4 3 ② 1

①課題

18歳人口のさらなる減少に対して、いかに入学生を確保できるか

②今後の改善方策

さらなる施設・設備の充実を図る

全ての無駄を排除する努力

③特記事項

今後財務情報を公開していく

(9).法令等の遵守

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 ③ 2 1
・自己評価結果を公開しているか	4 ③ 2 1

①課題

各教員の意識の充実

②今後の改善方策

自己評価の実施

③特記事項

自己評価公開

(10).社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 3 ② 1
・学生ボランティア活動を激励、支援しているか	4 3 ② 1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4 3 ② 1

①課題

経済的に厳しい学生が多く、また分野の特徴で実技が多いため、授業後の活動が難しい。

②今後の改善方策

学生への働きかけを行う
 学校が前向きに取り組む

③特記事項

産学連携プロジェクトの実施

(1 1).国際交流（必要に応じて）

評価項目	適 切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4 3 ② 1
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4 3 ② 1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4 3 ② 1
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4 3 ② 1

①課題

考え方の違いや言葉の問題によるトラブル発生の対処
 留学生担当教員の配置

②今後の改善方策

留学の条件を今まで以上に提示する

③特記事項

外国人労働者が多いため、留学生に関しては、慎重に取り扱っている

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

全体的には、ほぼ適切に行われている。ただ今後の少子化の問題や技術を持った教員の老齢化に伴う若い教員の技術育成を早急に実施しなければならない等の課題がある。